

令和2年度第1回市川市大町レクリエーションゾーン協議会議事録

開催日時： 令和2年10月19日（月）午後2時から

開催場所： 動植物園内会議室

出席者： 委員 加藤武央委員・金子貞作委員・淡路洋委員・宮田明吉委員・久保田章委員・
竹内一雄委員（会長）・湯浅光雄委員（副会長）・板橋正弘委員・高橋ひろ子委員
（井上 好子委員【欠席】）

所管課 水と緑の部 高久利明部長
八田一生次長

動植物園 水品繁和園長・事務局担当4名

関係課 教育委員会 生涯学習部 青少年育成課 田中英一課長【欠席】

教育委員会 生涯学習部 青少年育成課 少年自然の家 花澤進一所長【欠席】

教育委員会 生涯学習部 考古博物館 自然博物館 須藤治館長 他担当1名

事務局（大沼主幹）：

定刻となりましたので、ただいまから令和2年度 第1回 市川市 大町レクリエーションゾーン協議会を開催させていただきます。本日は、井上委員から欠席のご連絡をいただいております。

本日は、現時点で9名の委員の方の出席をいただいておりますので、

「市川市 大町レクリエーションゾーン協議会条例」第8条第2項に定める定足数に達していることから、本会議は成立となります。また、本日の協議会につきましては傍聴希望の方はおりません。それでは、本日の議題でございますが、

- (1) 大町公園保全管理基本方針について
- (2) 自然観察園の今年度実施整備内容について
- (3) 大町公園現地視察 でございます。

それではここで、事務局を代表して水と緑の部 高久部長 よりご挨拶をお願いします。

高久部長： -----（高久部長挨拶）-----

事務局（大沼主幹）：

ありがとうございました。それではここで、事務局の自己紹介をさせていただきます。

-----（席順に自己紹介）-----

事務局（大沼主幹）：

ありがとうございました。ここからの議事進行につきましては、竹内会長にお願いいたします。

竹内会長：

それでは、令和2年度第1回市川市大町レクリエーションゾーン協議会を開催いたします。

それでは、議題に入らせていただきますが、本日の議題は

- (1) 大町公園保全管理基本方針について
 - (2) 自然観察園の今年度実施整備内容について
 - (3) 大町公園現地視察
- となりますので、事務局より案内をお願いします。

事務局（大沼主幹）：

- (1)大町公園保全管理基本方針について、事務局を代表して動植物園 水品園長 より説明をお願いします。

水品園長：

-----((1)大町公園保全管理基本方針 説明)-----

「大町公園保全管理基本方針」に関する、その後の経緯と今後の予定について。

- 基本方針は部内、財政部、企画部の説明と了承後に副市長へ説明、当市における大町公園の重要性和整備の必要性は十分理解を得た。同時に、全体を考慮し市民の利活用の促進や各施設間の連携も意識した公園全体の方針案として改めて提案するよう副市長からの指示を受け、今年度は基本方針に加え動植物園、観賞植物園を含めた大町公園全体の整備基本方針を検討中。内容は今後の協議会の場でも経過報告の予定。
- 基本方針の内容は、昨年度は上流の整備方針はほぼ固まり、下流の大池周辺は今後の検討課題という認識（パネル掲示）。竹内会長、水と緑の部、自然博物館と意見調整を行い、現時点では池を無理に元の状態に戻さず、トンボや蛍が生息出来る湿地に戻して（イメージ写真参照）周辺通路を整備し、自然観察の中心地に変えて課題の一つである利活用を促進させたい。大池の鯉は、せせらぎゾーンを整備してそちらへ移動させたい。

本日の視察時に金子学芸員から整備内容詳細を説明して頂き、皆様のご意見を伺いたい。

事務局（大沼主幹）：

- (2)自然観察園の今年度実施整備内容について自然博物館 金子学芸員 より説明をお願いします。

金子学芸員：

-----((2)自然観察園の今年度実施整備内容 説明)-----

- 自然公園の現状はあまり芳しくなく、一向に40年前の風景に戻らない。大池の問題をどう処理すべきかはあるが、根本的問題について共通理解が必要。
（黒板に絵を描きながら）自然公園は両側に山がある谷状の土地で、谷の中央に水路。40年前は水田だった両側が、耕作終了以降、時間経過で両側の山の斜面から土砂が流れて「水面」だった水田を埋め、そこに草が生えた状態。実験的に土砂の一部を掘ると、下からかつての水田が出て来る。現在は水路を底としたすり鉢状で土手の樹木は伐採しても又生えてくる。原因となる土砂を取り除くのは、費用面も含めて現実的ではない。
- 大池は、バラ園造成の為に湿地帯から土砂を掘り出した為に池となってしまった場所。
鯉が背びれを出して泳ぐ姿を見た来園者から「鯉がかわいそう」という声が出ているが、浅瀬で苦しんでいる訳ではなく、普段はもっと深い所にいて餌を食べる時に餌の豊富な浅瀬に上がって来ているだけ。鯉については、水面を上げてせせらぎ園に誘導する案もある。
予算の問題等、堆積した土砂を取り除く事は現状出来ないが、掘れば元の水田が出てくる事は実験して分かった。現在は伐木と草刈の対症療法で、今後どうしていくかまだ未定。

事務局（大沼主幹）：

それでは、現地視察を実施させていただきます。視察後、再度この会議室にお集まり下さい。

-----（大町公園視察後）-----

竹内会長：

それでは、議題・大町公園現地視察について纏めたいと思います。事務局からお願いします。

事務局（大沼主幹）：

公園内での発言を、再度お願いしたい。竹内会長からよろしいですか。

竹内会長：

荒れているが、市川で自然の湧水で川が出来ているのはここだけ。職員でローテーションを組み、川の両端1mずつ位の除草を。除草は勤務してる人たちの必要最低限の仕事と思って携って欲しい。

加藤議員：

鯉は問題無いというのが一般には分からない事もあるので、看板の設置の設置等も必要だと思う。鯉をせせらぎ園の水路へとあったが、倒木の枝を積んでダムのようにしては？水が出ていく量を減らせば池の水量が増えるなら、対策の一つに考えるべきでは。

令和2年度6～8月が令和元年の同時期来園者を上回ったが、コロナの中でこれ程増える要因があったのか、来園者多数の中でのコロナに対する対策を聞かせて欲しい。

水品園長：

年間で一番来園者が多い4～5月に休園した事で通年では5万人位減ると思うが、制限・消毒等しつつ再開園をした6月9日から大行列だった。天候の悪かった9月以降は、数少ない雨天以外の土日に予想を超える人数が来園。ただ、入園も退園も早い。入園者数は天候要因が大きい、辛い時ほど動物に癒されたい気持ちは強いのでは。現在は動物とのふれ合いがコロナ対策で出来ないが、他者との接触を警戒しつつの僅かな時間でも来園者は訪れている。当園はサービス等が際立っている訳ではないが、適度な大きさや雰囲気を感じ入っている市民の方やリピーターが多いと感じている。サービスは中々増やせないが、現状に合わせ来園者に楽しんで頂ける候補を考えていきたい。

加藤議員：

動植物園は期待してる場所。コロナを出さないように注意して。池に関しては是非早急に。

金子議員：

コロナ関係で来園者の増加が見込まれるので、三密を避けつつ楽しんでもらう工夫を。特徴である「湧水のある自然公園」というコンセプトを維持する努力をして。以前言っていたように優先順位を決め、水面の上昇が明確に分かるようにして欲しい。けばけばしい物は不要だが、特徴やコンセプトが市民にも分かるように環境整備をお願いしたい。鯉の問題も、池の水位をもっと上げて当座は様子を見ていく事が必要なのでは。新しいトイレまでの道が砂利では子供や車椅子の方は使い辛いので、部分舗装等で車椅子でも回れる環境を作って欲しい。基本方針や優先順位を決めて、その分の予算もしっかり計画的に。

淡路委員：

自然保全の為の努力をやって頂ければ。

板橋委員：

土砂が蓄積して鯉が浅瀬に泳いでいると聞いたが、その通りと感じた。皆さんの意見を尊重して努力して頂ければ。植物園の中は凄く良い環境なので、これからも保全して欲しい。

宮田委員：

お金が掛かると思うが、トイレは引き続き整備して頂きたい。大池の鯉は出来るだけ減らしたい。他の生き物を食べてしまうので、鯉が多いと他の生き物は貧しくなる。そこは調整して。自然観察園は教育の場でもあるので、公園の湧水はローム層全体から染み出て来る湧水なのを知ってもらう事等はやって欲しい。

高橋委員：

蛭は沢山飛んだ方が良い風景になるのではないか。調節池に入る水が全部湧水だと言うと皆凄く驚くので、そういう説明があれば自然や水の大切さ等が分かり易くなるのでは。前回、整備計画を立てて頂いたが、動物園も自然観察園も癒しの場所だということをコンセプトにしていきたい。

久保田委員：

今日初めて鯉が横に泳いでるのを見た。水が池にもう少し溜まればいい。

湯浅委員：

形が変わるのが自然だとしても、市民に見て貰う為にはどこかで管理する必要がある。どこを取るかは委員の方々の意見と管理する人達のバランス。集客増で出来る事の範囲や発言力も強くなるのでは。自然の管理に目が行きがちだが「トイレやベンチが綺麗」「鯉が綺麗に泳いでる」等、細かい所の充実でも集客力は上がると思うので、それらをトータルで考えて行ければいい。

竹内会長：

皆様の意見を踏まえ、1年後に視察した付近の一带が綺麗になったという意見を頂けるように。

金子議員：

蛭が生息するような環境を作る為に、学芸員側から何か意見があれば聞かせて欲しい。

金子学芸員：

バラ園～アスレチック間で蛭が多い場所はバラ園から北側のみ。埋まっている土砂を削って水面を出せば、減少分が戻る可能性は大きい。そのままでは戻るのに時間が掛かるので、卵のふ化等で少し補助した蛭をそこに着ければ、バラ園より奥でかなり広がる。大池での蛭にこだわる必要もないかもしれないが、奥は木道形式で夜は危険な事を考えると、大池周りを簡易舗装して中央で蛭が飛んでいる形ならベビーカーや車椅子でも安全に見て頂ける。ただ蛭の期間は限定され、年中来園している方が鯉に関して納得いかない気持ちで1年散策されるのもマイナスなので、蛭は少し先送りして鯉を優先という選択肢も。

竹内会長：

他にご意見、ご質問等なければ、今日の会議は閉会でよろしいでしょうか。

水品園長：

春のレクゾーン協議会の中止でこんな時期になり大変申し訳ないのですが、可能なら1月か3月にもう一度レクゾーン協議会でお集まり頂き、動物園と植物園を今後どうしていくかを少しお話をさせて頂きたい。今回課題として観察園で言われた事等は、数か月ですぐ「何か変わった」とは少し言い辛いと思いますが、その辺に関しては来年度、改めて少しでも成果がお見せできればと考えていますので、今後ともご協力をよろしくお願いします。有難うございました。